

青年部活動の
基本スタンス

①あくまで自社の業務を最優先。仕事を放棄しての活動は本末転倒である。家庭があって会社があり、会社があって組合があり、組合があって青年部がある。仕事を調整したりなど工夫をして上手に時間を作って青年部活動に取り組み

②札幌協青年部綱領・指針を忘れない。全ての事業は綱領達成を目的としており、原点である。日々の行動、立ち振る舞いは指針を振り返り、道から外れないようお互いに見つめ合う。(綱領及び指針解釈別紙)

③先人の苦勞を決して忘れない。親組合や青年部を立ち上げたのは先輩諸兄であり、維持継続にも相当な力を注いできたのは紛れもない事実。先輩を敬いながらも過去に固執せず、「不易流行」の精神で革新を図る。

新たな10年への礎を築く

30周年を終え、次の40周年へ向けて時代に合った青年部の基礎を作り上げる

「発想・挑戦・発信」

若い斬新な発想で物事を考え、失敗を恐れず果敢に挑戦し、タイムリーに組合内外へ広く発信する

具体的方策

- ★部員数増大を見越した4委員会制へのシフト
- ★青年部会則変更

役員会

- ◆月1回開催。必要があれば臨時開催もある。青年部の意思決定最高機関。
- ◆各委員会から事業計画を上げて協議・審議をしたり事業報告をする。
- ◆各委員会ですっきりと作り上げたものについてのみ審議する。委員会を軽視したものは受け付けない。
- ◆「失敗を恐れず」と謳っているが、最初から失敗すると分かっているものを通すつもりはない。役員の見解で決定し、準備万端の状態を確認する。
- ◆役員全員が納得いくまで議論を交わし、他委員会の動きを含めて全員が把握できるようにし、役員自らが無責任な発言をしない。

各委員会

- ◆年間を通して、部員が主に活躍するフィールドである。自分の意見を持って積極的に参加し、分らないことは妥協せずに質問するなど、「1回1発言」を目指す。
- ◆役員報告を必ず行い、メンバーへの青年部全体の可視化に努める。
- ◆各事業の本質・目的を見失わずに計画立案する。メンバーですっきり議論し、熟成された事業計画等を役員会へ上程する。
- ◆今の段階では少人数のコンパクトな委員会を作った。そのメリットを生かし、委員会開催日のアンケート制などを導入して出席率向上を目指す。

部長

1年間の活動方針や活動内容、各委員会の事業分掌及び予算案を提示する。各事業内容の最終判断をし、全責任を負う。委員会事項について副部長と密に連携し、適時報連相に努める。親会理事会へ出席し、情報の共有を図る。

副部長

各担当委員会に出席し、委員長をサポート・助言し、委員会の精神的支えとなる。委員会事項について部長への報連相の役割を果たす。担当する外部団体との連絡調整を怠らない。

会計(副)

予算の執行と滞滞ない管理に努め年度決算を作成する。毎月役員会にて執行状況の報告をする。

監査

年に数回適宜、予算執行状況を監査する。年度決算を領収書・帳簿を含めてチェックし監査報告をする。

委員長

委員会の意思決定者であり、委員会総意を役員会へ上程する。委員会では議長を務め、意見の取り纏めを行う。各事業では副委員長の中から実行責任者を任命する。副委員長との報連相を欠かさない。

副委員長

委員長を補佐し、委員会の円滑な進行に努める。新入部員を含め、メンバーへの指導教育役となる。実行責任者の責務を負い、メンバーの協力を得て事業を遂行する。

総務委員会

文字通り、青年部の総てを司る委員会。青年部全体が円滑に活動できるよう、役員会の運営をはじめ通常総会などから名刺の作成に至るまで大小の仕事を抱える、青年部の要となる委員会である。

通常総会の開催

年に1回開催、必要があれば臨時開催もある。議案書のチェック・作成をはじめ総会の運営全般を取り仕切る。合わせて懇親会の企画運営進行も担当する。

合同委員会の開催

総会で事業計画等承認後の初の合同事業。総会や懇親会で伝えきれない事業計画の詳細を全部員に周知する場であり、ここから本格的に委員会が始動となる。

部員拡大推進活動

今回53名でスタートするが、2年後には10名が一気に卒業する。これまで青年交流会の開催で一定の成果は上げてきているが、この手法に限らず、より効果的に増員に繋げることができるとを調査研究し、実践に移す。色々なことに何度も挑戦して構わない。最重点事業の1つ。

青年部手帳の作成

2年に1回新体制発足に伴い作成するもの。今回は青年部会則変更の反映と全部員の入部年度や綱領指針の記載が最低限の追加項目。その他デザインや記載項目の見直しを行う。手帳のほか名刺作成なども担当する。

役員会の運営

その他庶務

広報委員会

新設された委員会で、文字通り「広く報せる」のが主な仕事。どんなに素晴らしい活動をして、世に発信しなければマスターベーションになってしまう。有効な媒体やツールを調査研究し発信し続けるスペシャリスト。

ホームページの運営管理

まずは新体制をアピールするためにもリニューアルは必須事項。運営管理の上で特定の部員への負担集中を解消したい。また、SNSの管理も併用なども含めて検討していく。

組合内部への発信

これまでの会館内ポスター掲示にあたる事業。ポスターに限らず、より効果的に組合員に発信できるツールを調査研究し、実行する。組合員の中にはHPを閲覧できなかったりFBなどのSNSを利用していない可能性も念頭におく。この活動が総務委員会の部員拡大活動と大きく連動する。特に力を入れたい事業の1つ。

マスコミ広報活動

ここ数年広がりを見せているが、さらに積極的に露出していきたい。青年部の存在をアピールすることによって組合の知名度・ステータス向上に繋がり、業界の地位向上にも役立つ。ひいては部員拡大にも連動する。従来は建設新聞のみでは意外と対象が狭い。新聞各社、テレビ各局、ラジオなど幅広く連携していきたい。

映像作成WG

尾池会長の要受章受&就任祝賀会で披露する紹介映像を制作する。開催日は8月20日で決定。7月中の完成を目指す。素材集めと構想を並行で進める。高いクオリティが求められる。

企画委員会

親会に対して内容を諮らなければならぬ事業を抱える青年部唯一の委員会。そう言った意味でも親会からの注目度は大きい。これまでの継続事業を進めながら新規の目玉事業に果敢に挑戦する。

技術&教育機関との連携

電工や工事管理部門の人材不足が顕著となってきており、このままでは業界の縮小衰退が危ぶまれる。全日大でも推進している、次代の担い手確保を目的に教育機関と連携交流し、電気工事業界の存在をアピールし、魅力を伝え、この業界に継続的に飛び込んでもらえる風土を作り上げたい。そのためには誰とどのような手法を取れば成果に繋がるか、多方面から情報を収集し、調査研究しなければならぬ。(他業界や全日他ブロックの動きなど) また、受け入れる側の体制や受け入れてからの指導教育問題など、青年部だけの力では成し遂げられない部分があれば、親会に対しての提言も視野に取り組んでいかなければならない。最重点事業の1つ。

組合員向け研修会

継続事業。今、組合員が何を欲しているのか敏感に察知し、企画に取り込んでいく。体験型や演習など座学一辺倒にならないよう注意。親会に諮らなければいけない唯一の事業で、手順を考慮すると早めの準備が必要となる。

ほくでん交流意見交換会

継続事業。エンドユーザーと一番近くにいる自分達が「知らない」では客離れが進む一方。せつかく生まれた繋がりをさらに緊密にし、見聞を広め、正しい情報を得て営業活動の一助にしたい。

事業委員会

青年部の存在意義の1つであり、会則「第1条」にも謳われている「会員相互の親睦」を実行する委員会。加えて青年部最大の事業でもある地域貢献活動を主導する技術者集団。

電気工事事業を活かした地域貢献活動

これまで4年連続市内の児童養護施設5カ所を同時にライトアップとイルミネーションで飾ってきた。子供たちの心の闇を明るく照らす素晴らしい事業であり、回を重ねるごとに園側との絆も生まれ、ただ飾るだけでなく子供達との触れ合いなどにも発展してきた。また全国でも高い評価を得た事業である。この事業の目的は我々電気工事屋がその技術を生かして地域に元気を与えることである。この目的から逸脱しなければ他のことを考えてもよい。ただし児童養護施設で得た意義を超えるものでなければ切り替えることはできない。そこを踏まえて継続か否か議論を交わす。継続であれば更なる発展を模索する。最重点事業。

家族レクリエーション

仕事や青年部活動で少なからず家族との時間を犠牲にしているかも知れない。家族の理解が無ければ青年部活動に時間は割けない。この事業の主役は家族である。日頃の感謝を意を込めて家族が最大限楽しめるよう企画する。これまでの主流だったクリスマスレクに拘るものではない。

各種セミナー

これまでは組合員を対象にしたり青年部に限定したり、いろいろなセミナーを試みてきた。今回は青年部員が青年部に在籍するメリットを得て欲しく青年部対象のセミナーにしたい。ただし親会からの要望事項もあるのてその内容が目的に合致するか協議。